

検証・浦和電車区事件の真実 No.22

民主化闘争情報 [号外] 2008年6月9日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合)

第22回 仲間の脱退を「勝利」とする異常な組織

Y氏(当該事件被害者)は、2001年2月28日、ついにJR東労組を脱退させられた。度重なる執拗な糾弾で疲れ果て、東労組との修復を諦めていたY氏は、言われるまま仕方なく脱退届を書いた。しかし被告の上原分会長はY氏に「職場での追及っていうのはこれからもどんどんやっていきますので、それだけは覚悟して下さい」と冷淡に告げた。

Y氏脱退のシナリオは2月4日には決まっていた！

実は、Y氏の脱退に向けたシナリオは、2月4日に開催されたJR東労組浦和電車区分会の拡大闘争委員会で1ヶ月先まで決定されていたことが、刑事裁判の公判や判決で明らかにされている。この2月4日の拡大闘争委員会には被告の梁次、上原、山田、斎藤ら20数名が出席し、拡大闘争委員会が開かれ、Y氏に脱退を迫る追及行動を行うことが確認され、3月上旬までの計画が決められていたのだ。すでに記載した2月13日から16日の職場集会の開催も確認されていた。そして、同委員会の方針に基づき、2月19日から28日まで、役員が組合員一人ずつ会って、Y氏を脱退させることについて、感想を求めるなどした個別総対話行動が実施された。同行動が終わる2月28日にY氏に脱退届を書かせることも既定路線であった。さらに、3月4日にはY氏の脱退を前提に勝利集会を開くことまでもが、何と1ヶ月前から決定されていたのである。

これからも追及の手を緩めることはありません！

Y氏が脱退させられた2月28日当日には、分会「闘争委員会ニュース」が発行された。その中には、次の記載がある。

私たちの猛烈な追求に耐えかねたのか、ついにY本人の口から「東労組を脱退します」という言葉が発せられました。脱退は勿論言動・行動からすれば極めて当然のことではありますが、心から反省させるとして今日までできましたが本日2月28日に脱退届を提出させました。ただ脱退させればいいというものではありませんし、これからもYに対する追及の手を緩めることは決してありません。

そして浦和電車区分会は、3月4日、「俺たちの情熱と団結力を結集する大集会」と銘打った勝利集会を開催した。集会では分会のP書記長が作成した「闘争勝利宣言」が読み上げられ、Y氏を題材とした寸劇が演じられるなどした。同宣言には「全組合員の腹の底からの怒りをもった意志であることを突きつけ、その結果、13時15分Yは『脱退届』を自ら提出した」と記載されている。

組織ぐるみで1人の青年の尊厳を否定する東労組。組合を脱退させたことが「勝利」なのだろうが、仲間をいじめて良心の呵責を感じないのだろうか。彼らに不都合な者は敵であり、排除の対象者でしかなく、今も組織の体質は何も変わっていない。(次号に続く)